

## 1 経済日誌

2023年4月～2023年7月

全 国		和歌山・大阪	
4月6日	<b>キャッシュレス決済、100兆円超</b> 経済産業省は、2022年のキャッシュレス決済額が111兆円(前年は95兆円)となり、初めて100兆円を超えたと発表。国内の総支出額に占めるキャッシュレス決済の比率は36%。	4月5日	<b>白浜空港、22年度過去最多の23万人</b> 南紀白浜空港(白浜町)の2022年度の搭乗者(速報値)は23.1万人で、最多記録を更新。年度別で最多だった19年度に比べて30.6%増加。観光需要の増加に加えビジネス需要も好調。
4月12日	<b>日本人、過去最大の75万人減</b> 総務省は、昨年10月1日時点の人口推計で、日本人は1億2,203万人(前年比75万人減)で、比較可能な1950年以降最大の減少と公表。14歳以下の割合も過去最低の11.6%に。	4月27日	<b>和歌山県推計人口90万人切る</b> 和歌山県は、4月1日現在の県推計人口が89万5,931人と、調査開始の1967年以降、初めて90万人を下回ったと発表。特に近年は自然減(死亡数と出生数の差)が急増。
5月30日	<b>22年漁獲量が過去最低</b> 農林水産省は、2022年の漁業・養殖業生産統計において、養殖を含む漁獲量が前年比7.5%減の385.8万トンと、2年連続の減少となり、比較可能な1956年以降で最低を更新と公表。	5月23日	<b>関西企業の賃上げ率4.57%</b> 日本経済新聞社がまとめた2023年の賃金動向調査で、関西主要企業の平均賃上げ率は4.57%と、比較可能な01年以降2年連続で最高を更新。全国平均の3.89%も上回った。
6月2日	<b>出生率1.26、過去最低に並ぶ</b> 厚生労働省は、2022年の人口動態統計において、一人の女性が生涯に産む子どもの数に相当する合計特殊出生率が1.26と、前年の1.30を下回り、05年に並ぶ過去最低と公表。	5月25日	<b>昨年の県内新設法人575社</b> 東京商工リサーチは、新設法人動向調査で、和歌山県内の2022年の新設法人数が575社と、前年比4.6%(28社)減少と発表。国が実施した事業者向け支援の縮小が影響した模様。
6月11日	<b>5月自社株買い、月間での過去最高</b> 日本企業が5月に発表した自社株買いの枠が3.2兆円と、前年同月の3.1兆円を超え、月間での最高を更新。東京証券取引所の「株価を意識した経営」要請が背景。	6月23日	<b>白浜空港、5年半ぶり国際チャーター便</b> 南紀白浜空港(白浜町)とベトナムを結ぶ国際チャーター便が、7月26日、30日に就航。同空港への国際チャーター便の就航は5年半ぶりで、ベトナムからは初。
7月7日	<b>5月実質賃金1.2%減少</b> 厚生労働省発表の5月の毎月勤労統計調査によると、1人あたりの賃金は物価変動を考慮した実質で前年同月比1.2%減少となった。減少は14カ月連続。	7月3日	<b>県内路線価、2年連続で全国最低</b> 和歌山税務署は、今年の県内路線価を公表。標準宅地の平均価格は前年比1.2%下がり、31年連続の下落。2年連続の全国最低で、人口減少や高齢化に加え、津波災害への懸念も影響。
7月20日	<b>今年度実質成長率1.3%に下げ</b> 政府は、2023年度の国内総生産(GDP)の成長率見通しについて、実質で前年度比1.3%と、1月公表の試算値1.5%から下方修正。物価高や輸出の伸び悩みが下押し要因に。	7月6日	<b>関西初ドローンの住民物流サービス</b> 日高川町で、関西初となるドローンによる住民向け物流サービスの社会実装がスタート。同事業は、物流大手セイノーホールディングスとドローンの開発・企画運営を行うエアロネクスト等が手掛ける。
7月21日	<b>6月消費者物価3.3%上昇</b> 総務省発表の6月の消費者物価指数は、変動の大きい生鮮食品を除く総合指数が前年同月比3.3%上昇。3.0%の米国を上回り、約8年ぶりの日米逆転。電気代値上げや食料品高が影響。	7月10日	<b>大阪市、生成AIで庁内業務を効率化</b> 大阪市は、庁内業務に対話型人工知能(AI)「チャットGPT」などの生成AI活用に向け、今秋までに素案をまとめる。同市職員は約3万5千人、公共事業も多岐に渡り役所内の業務効率化を検討。
7月28日	<b>日銀、長期金利上限事実上1%へ</b> 日本銀行は、金融政策決定会合で長短金利操作(イールドカーブ・コントロール)の修正を決め、長期金利の上限は0.5%を「めど」に一定の上昇を容認し、1%を事実上の上限とした。	7月18日	<b>大阪IR、2029年開業は困難</b> 大阪府の吉村知事は、統合型リゾート施設(IR)の開業時期について、当初想定した2029年秋頃から冬頃は困難との認識を示した。政府による計画認定遅れで開業がずれ込むと説明。

## 2 地域開発のうごき

2023年4月～2023年7月

### 和歌山県内

#### 4月5日 田辺市新庁舎、完成まであと1年

田辺市役所の新庁舎完成まであと1年。完成は来年3月予定で、高台の東山1丁目にある建設現場で工事が進む。新庁舎は鉄筋コンクリート造り地上6階建て（延べ床面積約1.7万㎡）。

#### 4月20日 印南と日高川の町境、風力発電事業を計画

東急不動産は、印南町と日高川町の町境で、「和歌山印南日高川風力発電事業（仮称）」を計画。規模は、最大9.4万キロワットで、風力発電機は最大22基、2030年の営業運転開始を目指す。

#### 5月24日 印南町、防災福祉センター完成

印南町で、福祉と防災の拠点となる町防災福祉センターが完成。1階に町社会福祉協議会の事務所やラウンジ、防災会議室、2階は会議室や和室のほか、調理室やサークル室があり、住民交流にも活用する。

#### 6月3日 紀の川フルーツライン、全線開通

橋本市と紀の川市を結ぶ、紀の川左岸の広域農道「紀の川フルーツライン」24.4キロの全線が開通。特産の柿など農産物輸送の利便性向上や観光振興が期待される。

#### 6月23日 美浜町、にぎわい創出へ新計画 煙樹海岸の活性化構想

美浜町は、煙樹ヶ浜を中心とした「煙樹海岸活性化基本構想」を発表。海産物などの産品加工販売所の新設のほか、新浜の公園の充実、第1若もの広場の再整備などを進め、地域活性化に繋げる。

#### 6月26日 新宮紀宝道路、来秋開通予定

三重県境の熊野川に架かる「熊野川河口大橋」（延長821メートル）が繋がった。この大橋を含む「新宮紀宝道路」（新宮市－三重県紀宝町、2.4キロ）は、紀伊半島を一周する高速道路の一部で、国土交通省は来秋の開通を目指す。

#### 7月1日 橋本市に企業次々、好立地・格安地価で需要増

橋本市では、工業団地整備により県内外からの企業誘致が好調。京奈和自動車道に近い好立地と格安地価が追い風で、2024年12月分譲予定の新工業団地「あやの台北部用地」（約30万㎡）の造成も進む。

#### 7月4日 御坊沖に関西電力が洋上風力発電、意見募る

関西電力などが御坊市南西約10～30キロの海域に計画する洋上風力発電について、「計画段階環境配慮書」の縦覧が始まった。規模は、発電設備を50～110基設置し、原子力発電所1基分に相当。

#### 7月7日 県道芳養清川線 清川工区が工事完了

田辺市芳養町とみなべ町清川を結ぶ県道芳養清川線で、「清川工区」（延長約600メートル）の改良工事が完了。みなべ町側1.6キロ区間の芳養清川線の全線が完工し、清川地域の同県道は全て2車線に。

## 3 地域開発のうごき

2023年4月～2023年7月

### 大阪府内

#### 4月17日 ららぽーと門真が開業、アウトレットも併設

三井不動産は、大阪府門真市に「三井ショッピングパークららぽーと門真」を開業。大型商業施設とアウトレットの複合施設で地上4階建て。アパレルや飲食など計251店舗が入り、年間来店客数1,500万人が目標。

#### 5月8日 泉佐野駅前広場にホテル開業

ベッセルホテル開発（福山市）は、南海泉佐野駅の隣接地に「レフ関空泉佐野 by ベッセルホテルズ」（客室222室）を9月1日に開業すると発表。泉佐野市が進める泉佐野東駅前広場ホテル建設プロジェクトの一環。

#### 5月16 大阪駅西側の新駅ビル、「イノゲート大阪」に

JR西日本などは、JR大阪駅西側で建設を進める新駅ビル（地上23階、地下1階、延べ6万㎡）の名称を「イノゲート大阪」に決定。2024年秋開業予定。大阪駅西口に直結し、地上2階とルクア大阪が繋がる。

#### 5月31日 大阪メトロ新駅・公立大新キャンパス、森之宮まちづくり案募る

大阪府と大阪市は、大阪メトロが2028年に新駅開業予定の市東部森之宮地区について、大阪公立大の新キャンパス整備を軸とした、まちづくりのアイデアを事業者から募る「市場調査」を始めた。

#### 6月7日 十三再開発に350億円 阪急阪神不動産、タワマン建設軸に

阪急阪神不動産は、阪急電鉄十三駅近くで超高層マンションを柱とした再開発に350億円程度を投資。十三駅東口側に「ジオタワー大阪十三」を建設中で、2026年竣工予定。地上39階建てで総戸数712戸。

#### 6月21日 大阪メトロ、万博関連に1,000億円投資 空飛ぶクルマ離着陸場も

大阪メトロは、大阪・関西万博関連の投資見込み額が約1,000億円になると発表。電気自動車（EV）のバスや新型車両導入、駅リニューアルのほか、森之宮車両工場跡地に「空飛ぶクルマ」の離着陸場設置を目指す。

#### 6月23日 万博跡地、国際医療拠点に 外国人と先端技術橋渡し

大阪府の吉村知事は、2025年大阪・関西万博の閉幕後、会場跡地を国際医療拠点にする方針を固めた。医療目的の来日外国人の受け皿とし、検査や診察を行い、最先端医療病院への橋渡し拠点になる構想。

#### 7月3日 京阪、中之島線の延伸検討 夢洲行き便利に

京阪ホールディングスは、京阪本線から分かれる中之島線（天満橋－中之島）について、大阪メトロ中央線の九条駅まで、約2キロ延伸することを検討。中央線は夢洲に乗り入れ予定で、中之島線の利便性向上を期待。

#### 7月11日 南海、阪急連絡線の活用検討

2031年春に開業する新線「なにわ筋線」で、南海電気鉄道が同線始発駅のJR大阪駅から新大阪駅までの列車乗り入れにあたり、阪急電鉄が2駅間で開業する「連絡線」の利用を検討。

## 4 関西国際空港

2023年4月～2023年7月

### 関西国際空港

#### 4月7日 中国南方航空が関空－北京大興を新規就航

関西エアポートは、本年4月9日より中国南方航空が関空－北京大興線を新規就航すると発表。北京大興空港は、2019年に開港した北京で最も新しい空港で、関空と直行便で結ばれるのは今回が初。

#### 4月25日 関西エアポートと阪南市、関空で採取した海藻を阪南市へ移植

関西エアポートは、大阪・関西万博「TEAM EXPO 2025」プログラムの共創チャレンジに登録の「大阪湾の海の森（藻場）保全・再生プロジェクト」事業の一環で、関空で採取した海藻を阪南市へ移植と発表。

#### 4月25日 関空、22年度の旅客数3倍 訪日客の回復鮮明

関西エアポートは、2022年度の関西空港の運営概況（速報値）で、国際線と国内線を合わせた総旅客数が前年度比3.2倍の1,149万人と発表。国際線では前年度比約1.9倍と訪日客の回復が鮮明に。

#### 5月23日 エティハド航空が関空初就航

関西エアポートは、本年10月2日よりエティハド航空が関空－アブダビ線（週5便）を新規就航すると発表。エティハド航空はアラブ首長国連邦の国営航空会社で、アブダビ国際空港への直行便は関空として初。

#### 5月25日 2030年度までに温室効果ガス排出を50%削減

関空で排出される温室効果ガスの削減を話し合う脱炭素化推進協議会が開かれ、空港で運用する車両を電気自動車にするなどの取組みで、2030年度までに排出量を2013年度の50%にすることを決定。

#### 5月26日 上海吉祥航空が関空－北京大興を新規就航

関西エアポートは、本年7月1日より上海吉祥航空が関空－北京大興線を新規就航すると発表。北京大興空港は、2019年に開港した観光スポットでもある新空港で、ターミナルビルと鉄道駅が直結。

#### 6月14日 関西エア、3期連続赤字 航空需要は回復

関西エアポートは、2023年3月期決算で、売上高が前年比50%増の999億円、最終利益は190億円の赤字（前期は303億円の赤字）と発表。赤字は3期連続。24年3月期は黒字転換を目指す。

#### 6月28日 エアロK航空が関空－清州線を新規就航

関西エアポートは、本年7月6日よりエアロK航空が初の国際線路線となる、関空－清州線を新規就航すると発表。エアロK航空は、韓国を拠点とするLCC（格安航空会社）で、国際線路線就航は関空が初。

#### 7月5日 ジェットスター航空が関空－ブリスベン線を新規就航

関西エアポートは、来年2月2日よりジェットスター航空が関空－オーストラリア・ブリスベン線を新規就航すると発表。週4往復を運航する予定で、関空から同国への直行便は、ケアンズに次いで2都市目。

#### 7月24日 厦門航空が関空－重慶線を新規就航

厦門航空は、本年8月5日より、関空－重慶線を新規就航する。厦門航空は、本年4月に関空での運航再開以来、関空から厦門、杭州への路線を運航しており、8月6日には福州線の運航再開を予定。